

半世紀の成果としての博士課程スタート

萩 裕美子*1

東海大学紀要（体育学部）の創刊第 50 号、誠におめでとうございます。毎年の研究の蓄積が半世紀にわたり、紀要という形で残されてきたことは大変、意味ある事と思います。

さて、このめでたい節目に、図らずも博士課程が設置され、稼働することとなりました。博士課程の設置は、先人たちも何度かチャレンジされたとお聞きしております。そのようなチャレンジもあって、教員採用の折には博士課程の担当も可能であることを念頭に置いた採用活動をしてきました。その結果、現有勢力だけでチャレンジができたこととなり、まさに機が熟したと思われま

す。博士課程設置のきっかけは、外部評価でした。多くのオリンピックを輩出し、指導者やコーチも育成してそれなりの実績があるにもかかわらず、博士課程がないのはどうなのか。本学でも博士課程を持たないの 2 つの学部でその一つが体育学部でした。学生にとっても指導者にとっても魅力ある大学にするためには、博士課程の設置は必須と思われました。

また社会情勢もめまぐるしく変化を遂げ、体育・スポーツ振興においても、大きな影響があります。社会が複雑になり、一つの専門分野だけでは解決しない課題が山積みです。これまであまり縁のなかった領域においても、体育・スポーツへの期待が高まっています。スポーツ立国戦略が提案されたり、健康寿命の延伸に身体活動促進やスポーツ実施率の向上が期待されたり、地域の活性化にスポーツが一役買ったりと、スポーツそのものの研究だけでなく、様々な分野とのコラボレーションが求められています。

このような社会的背景の中で、体育・スポーツ

の博士課程を設置することにはどのような意味があるのか。ワーキンググループを作ってオープンに話し合いを重ねました。本研究科の特徴としてスポーツの実践現場を持っていること、総合大学であることで、他分野との共同研究も可能であること、本学はこれらを強みにして、新しいタイプの体育・スポーツ研究者（多領域において専門家として活躍できる）の育成を目指すこととなりました。またこれらを具現化できる可能性を秘めていると感じています。

また、2022 年には本学全体の改組改変があり、新たな時代に向かう人材育成を目指しています。体育学研究科は体育学部を根とし、現場を重要視し、より高度化した研究を進めていく所存です。そのためには実践現場の声をより多く反映し、どのような課題があるのか、どのような解決法が有効だったのか、実践研究、症例研究も重要です。大事なものは研究の蓄積です。引き続き研究の蓄積が行われ広く公開されることを期待しております。

* 1 体育学部 体育学研究科長